

創造・参加・実践
No.551

最新のJR西労組運動をチェックしよう!

JR西労組ホームページ

http://www.jrw-union.gr.jp

QRコードでダイレクトニュースを登録して下さい

労働協約改訂交渉や春闘等の
JR西労組運動の情報を
文字ニュースとして配信します。
※WJru.comをドメイン指定して下さい。



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西 阪 急 ビ ル 9 階
TEL06-6375-9869代 JR071-7155代
(FAX)06-6373-4133 JR071-7151

発行責任者 荻山 市朗
編集責任者 宮野 勇馬

2016年 新年のごあいさつ



西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長
荻山 市朗

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

JR西労組組合員のご精励により、JR西日本グループは安全を基礎に、好調な経営動向を維持しています。年末には、私たちの要求に基づき一時金が支給されました。安全確保のうえに経営を支えていただいている皆様の日頃のご労苦に対し、あらためて御礼と感謝を申し上げます。

私は、7月の第27回定期中央本部大会にて、5代目となる中央執行委員長に就任しました。JR西労組、さらに50組合のグループ労組に結集するJR西日本連合の組合員と家族の皆様の負託に応え、将来にわたり、働く仲間との雇用と生活を守り向上させていくために、責任ある運動を進めていく所存です。

年頭にあたり、以下の2点に絞って問題提起し、ごあいさつとします。

「安全提言」を活用して職場からの安全を確立しよう

すべての組合員の皆様には、福知山線列車事故を決して忘れず、安全の確立にむけて真摯に取り組んでいただいています。一方、とくに昨年後半から、大規模な輸送障害や重大な労働災害が相次いでいることを踏まえ、問題意識を高めなければなりません。安全の原点は職場にあります。安全最優先の意識の下に、基本動作やルールを理解し順守することはもとより、「ヒューマンエラー」は結果であり原因ではない」との理念に基づき、ミスや不安な事象などを確実に報告し、事故防止につながる取り組みを積み重ね、職場からの安全を確立していくことが必要です。

しかし、例えば、リスクアセスメントに関し、3割台の組合員が懲戒やマインナス評価の対象ではない安全報告の報告にあたり「責任を追及される」と感じている実態や、工務職場の線路内作業において、グループ社員がJR本体に気兼ねしたり工期の遅れを気にして、決められたルールを理解しながらも逸脱した対応を行っていた実態などが明らかになっています。「安全考動計画2017」に、いわば魂を入れて、計画の実効性を高めるためには、私たちのチェック、提言の取り組みが非常に重要です。JR西労組は、こうした課題認識から、10項目の提言をまとめた「安全提言」を作成しました。この提言を分会の執行委員会や安全衛生委員会の議論などで活用し、グルー

プや協力会社にも目を配りながら、職場からの安全確立につなげていただく取り組みをお願いします。

結成25年 JR西労組の役割を認識し責任ある運動を展開しよう

本年12月、JR西労組は結成25年の節目を迎えます。国鉄改革で7万名以上の仲間が鉄道を去る雇用不安のうえに、1987年4月にJR西日本が発足し、そして、組合の分裂や統合の経過の後、1991年12月6日に現在のJR西労組が結成されました。先輩方の努力の積み重ねによって今日の安定した雇用や社会的な地位、平和な労働関係があることを忘れてはなりません。こうした環境を今後も維持、発展させていくために、今年は、歴史を振り返るとともに、目指すべき責任あるJR西労組の組織と運動、労使関係などについて考え、提起していく活動を進めます。

また、JR本体とは賃金や労働条件など依然格差のあるグループ労組への波及効果をさらに拡大し、JR西日本グループの健全な発展と働く仲間の地位の向上を図るために、JR西日本連合と連携した取り組みにもいっそう力を入れていきたいと思えます。

JR西労組は、昨秋、約9割の組合員にご協力いただき意識調査を実施しました。その中で「この1年間でJR西労組の運動に参加しましたか」との設問に対し、「参加した」との回答が6割強、「参加していない」との回答が4割弱でした。各機関の大会や集会、レク活動、歓送迎会、春季生活闘争の徹布行動など様々な活動への参加がある一方、1年間を通じて4割近い組合員が活動に参加していないのはたいへん残念です。労働組合の原点は、仲間意識や助け合いに基づく職場の世話役活動にあります。すべての組合員が何らかの活動に参加し、JR西労組の取り組みや成果を知っていただくとともに、意見や悩みを聞くコミュニケーションを深めることが大切です。さらに、職場の問題点はできるだけ職場で解決する取り組みを進めていただくよう要請します。

このように、結成25周年の節目を捉え、先輩から受け継いだ守るべき運動を大切に守り継承するとともに、環境の変化に対応するために変革すべきは変革し、企画提案の姿勢で責任ある運動を推進していきたいと思えます。

二〇一六年 元旦



本年も宜しくお願い申し上げます

- 特別執行委員 松岡 裕次 (JR連合(会長))
- 特別執行委員 上村 良成 (JR連合(執行委員))
- 特別執行委員 中山 耕介 (JR連合(執行委員))
- 特別執行委員 宮武 秀美 (近畿・大阪交運労協(事務局長))
- 会計監査員 前田 健治
- 会計監査員 木下 幸一
- 会計監査員 鷺尾 保
- 会計監査員 河口 裕
- 職員 岡村 恵子
- 職員 釣本 恵里
- 職員 小林美由紀
- 職員 昆野裕美子

